

【宇部・小野田医療圏】具体的対応方針等整理票

資料 3 - 2

整理 番号	区域	医療機関名	許可病床数 (精神・感染症・結核除く) R5.7.1 ※1	病床機能報告による 機能別病床数 ※1		施設基準の 状況 R5.7.1 ※2	認定・届け出等 ※3					「公的医療機関等2025プラン」又は「医療機関2025プラン」の記載内容のうち、「自施設の現状」「今後の方針」「4機能ごとの病床のあり方について」から集約・抜粋((プラン未作成の有床診療所については、病床機能報告の報告内容から整理) ※4	対応方針の実施状況 (令和6年6月末時点) ※5			
				R5.7.1	R7.7.1		地域 医療 支援	救急 医療 施設	在宅 療養 支援	在宅 療養 後方 支援	終 末 期 医 療		機能別病床 数(2025)	実施状況	備 考 (実施予定時期など)	
1	宇部・小野田	サンボプラ病院	療養 42 42	慢性 42 42	慢性 42 42				○			・人工透析患者に対する療養が中心。	・周辺地域の無床診療所からの入院患者受け入れを行っているが、さらに連携を強化して機能を充実させていく。 ・急性期医療(整形外科手術等)を受けた後の入院患者の在宅復帰に向けた受け皿としての機能をさらに充実させていく。	慢性 42 42	実施済	
2	宇部・小野田	山口宇部医療セ ンター	一般 335 335	急性 335 215 慢性 120	急性 335 215 慢性 120			○		○		・がん、呼吸器疾患の専門病院として、地域医療機関との連携により高度で先進的な診療を行っている。 ・県から特定領域がん診療連携推進病院(肺がん)に指定されている。全国でも肺がん症例が多く、肺がんの診断から緩和ケアまであらゆる病期の患者の診療をシームレス行うことが可能である。 ・治験・臨床試験の実施など全国レベルの質の高い先進的な臨床研究を行っている。 ・山口大学医学部附属病院と連携した呼吸器専門医の養成等の医師教育等、地域医療の向上に努めている。 ・結核及び重度心身障害児(者)にかかる政策医療(セーフティネット系医療)も担っている。	・現状と同様に、がん、呼吸器疾患の専門病院として地域医療機関との連携により高度で先進的な診療を行い、山口県全域の診療をカバーする。 ・肺がんについては引き続き特定領域がん診療連携推進病院(肺がん)に指定を受けて行政からの期待を担い続ける。 ・臨床研究の推進により医療の発展に貢献する。 ・地域医療従事者や地域住民に対する教育・研修を行い、地域医療を支える役割を担っていく。 ・結核や、慢性期病床として位置づけされている重度心身障害児(者)にかかる政策医療も引き続き担っていく。	急性 335 215 慢性 120	実施済	
3	宇部・小野田	山口大学医学部 附属病院	一般 713 713	高度 713 310 急性 403	高度 713 310 急性 403			◎				・5事業(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患)及び5事業(救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療)の政策医療を担う。	・特定機能病院として、高度の医療技術の開発及び高度の医療に関する研修を実施する。 ・特定機能病院、肝疾患診療連携拠点病院、がん診療連携拠点病院及び総合周産期母子医療センターとして、2次医療圏の範囲を越えた地域の住民を対象として、専門性の高い医療を提供する。 ・山口県内唯一の医育機関として、山口県の実情に応じた教育体制を構築する。	高度 713 309 急性 404	実施済	
4	宇部・小野田	宇部協立病院	一般 159 105 療養 54	急性 159 53 回復 52 慢性 54	急性 159 53 回復 52 慢性 54	地ケア 52 52		○	○			・在宅療養支援病院(在宅医療の実施、在宅支援診療所との連携) ・2次救急担当。 ・無料低額診療事業を実施	・地域包括ケア病棟により、地域における回復期機能の一翼を担う。 ・強化型在宅療養支援病院として医療機関との連携強化、訪問看護STや施設等との連携強化など、在宅医療を推進していく。 ・当院は医療圏域の救急車受入台数は約800台/年で救急医療に貢献している。今後も2次救急体制を継続することに努める。	急性 159 53 回復 52 慢性 54	実施済	
5	宇部・小野田	宇部仁心会病院	一般 47 22 療養 25	急性 47 22 慢性 25	急性 47 22 慢性 25							・人工透析患者に対する療養及び心臓カテーテルを中心とした急性期医療。	・地域病院としての診療所からの入院受入態勢・連携の強化を充実させていく役割。 ・透析患者・心臓疾患患者への対応で現状の急性期・慢性期の病棟機能を整備する。	急性 47 22 慢性 25	実施済	
6	宇部・小野田	宇部記念病院	一般 190 128 療養 62	急性 190 66 慢性 124	急性 190 66 慢性 124				○			・急性期機能と慢性期機能を担う。	・かかりつけ医機能と共に在宅医療を担い、入院医療においては、サブアキュート機能・ポストアキュート機能・在宅復帰支援を中心とした回復期医療及び療養病棟・障害者病棟の運営による慢性期医療を提供する。 ・2次救急医療は引き続き担い充実化を図る。 ・住民に向けて、健康づくり・介護予防教室・住民カフェの開催等の地域貢献活動に取り組む。	急性 190 45 回復 55 慢性 90	実施済	
7	宇部・小野田	宇部興産中央病 院	一般 384 384	高度 384 62 急性 237 回復 85	高度 384 62 急性 237 回復 85	回リハ 85 地ケア 38 44	○	○				・4機能のうち高度急性期・急性期が中心である。	・山口大学医学部附属病院のみでは対応しきれない、脳卒中・運動器疾患・がん・心大血管疾患への対応を中心とした高度急性期・急性期医療の提供体制は維持していく。 ・地域包括ケア病等の地域に必要とされる回復期機能の一部を拡大させて、在宅復帰率・介護系施設への退院数を増加させる。 ・二次医療圏域内からの救急受入れを担うとともに、二次医療圏域外からも救急受入れを柔軟に対応する。 ・自宅、施設を含めた在宅医の後方支援や在宅患者、在宅施設の感染管理教育、多職種との連携の推進など在宅医療の促進。	高度 384 62 急性 237 回復 85	実施済	
8	宇部・小野田	社会医療法人い ち樹会尾中病院	一般 110 60 療養 50	回復 110 60 慢性 50	回復 110 60 慢性 50	地ケア 46 46		○				・4機能のうち、回復期、慢性期が中心。	・地域包括ケアシステムにおけるハブ機能を果たし、地域に根ざした地域医療・介護連携の中心的役割を担う。 ・ポストアキュートとして、医療圏内の高度急性期からの紹介を積極的に受入れ、サブアキュートとして、診療所・介護施設と連携を密にし、初期救急、慢性疾患の急性増悪の患者受入れを図る。 ・予防としての健康診断事業、在宅復帰等のための短期通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションを拡充していく。予防から救急・医療・介護・在宅までシームレスなサービスを提供する。	急性 110 14 回復 46 慢性 50	実施済	
9	宇部・小野田	宇部第一病院	療養 160 160	回復 160 32 慢性 128	回復 160 32 慢性 128	回リハ 32 32						・回復期機能、慢性期機能を担う。 ・介護保険施設等を併設し、医療・介護のシームレスな連携が可能。	・慢性期医療を中心に、準急性期・回復期医療を維持していく。 ・整形外科疾患に常時対応する。	回復 160 32 慢性 128	実施済	

整理 番号	区域	医療機関名	許可病床数 (精神・感染症・結核除く) R5.7.1 ※1	病床機能報告による 機能別病床数 ※1		施設基準の 状況 R5.7.1 ※2	認定・届け出等 ※3					「公的医療機関等2025プラン」又は「医療機関2025プラン」の記載内容のうち、「自施設の現状」「今後の方針」「4機能ごとの病床のあり方について」から集約・抜粋(「プラン未作成の有床診療所については、病床機能報告の報告内容から整理」) ※4	対応方針の実施状況 (令和6年6月末時点) ※5				
				R5.7.1	R7.7.1		地域 医療 支援	救急 医療 施設	在宅 療養 支援	在宅 療養 後方 支援	終 末 期 医 療		病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床 数(2025)	実施状況	備 考 (実施予定時期など)
10	宇部・小野田	宇部リハビリテーション病院	療養 232 232	回復 慢性 232 40 192	回復 慢性 232 80 152	回リハ 40 40					○	・回復期機能、慢性期機能を担う。	・急性期医療を受けた後の医療が必要な患者及び在宅等で急性増悪した患者の受入れ機能を一層充実させていく。 ・病棟機能強化のため、病床数の見直しを行う(慢性期病床の一部を回復期病床へ転換予定としていたが、建替計画に合わせて転換数を変更)。 ・回復： 40(現状)→ 92(変更前プラン)→ 80(変更後プラン) ・慢性：192(現状)→140(変更前プラン)→152(変更後プラン)	回復 慢性 232 80 152	未実施	令和7年度実施予定 (令和8年度以降の病院建替計画に合わせ、実施時期が変更となる可能性あり)	
11	宇部・小野田	セントヒル病院	一般療養 184 101 83	急性 慢性 184 101 83	急性回復 慢性 184 101 43 40	地ケア 14 14		○				・急性期機能、回復期機能、慢性期機能を担う。 ・4機能のうち急性期が中心。	・血液浄化治療(透析)やPET-CTを中心に当院に特徴のある部分を活かして更なる地域貢献のできる体制作りをしていく。 ・現在、病院の建て替え検討中であり、病床数や医療機能について今後変更の可能性あり。 ・新たに訪問看護ステーションも開設し、地域包括ケア病床数を徐々に増床し、在宅復帰支援及びサブアキュートの強化を図る。 ・引き続き人工透析中心に専門性の高い医療を提供していく。	急性回復 慢性 184 101 43 40	未実施	令和7年度実施予定	
12	宇部・小野田	厚南セントヒル病院	一般療養 80 40 40	急性 慢性 80 40 40	急性 慢性 80 40 40			○				・人工透析治療を主とした泌尿器科の診療が中心、一般病棟、療養病棟を持つケアミックスの病院であり、4機能で言えば慢性期寄りに位置する。 ・サポート病院として、内科系の救急受入を中心として宇部・山陽小野田圏域の救急輪番に参加している。	・当院の特徴を生かしたより専門性の高い医療の提供(人工透析治療、放射線治療(サイバーナイフ))。	急性 慢性 80 40 40	実施済		
13	宇部・小野田	シーサイド病院	療養 155 155	回復 慢性 155 51 104	回復 慢性 155 51 104	回リハ 51 51						・回復期機能、慢性期機能を担う。	・引き続き地域の中で急性期医療後の受け皿としての役割を担うと共に地域に密着した医療を目指す。	回復 慢性 155 51 104	実施済		
14	宇部・小野田	宇部西リハビリテーション病院	療養 250 250	回復 慢性 250 121 129	回復 慢性 250 121 129	回リハ 121 81 40	地ケア 40				○	・回復期リハ・地域包括ケア病棟を併せた回復期機能病床121床を中心に、急性期医療と在宅との橋渡しを念頭に置いた医療提供に努めている。	・回復期機能病床と療養病床との連携を軸に、チーム医療と365日毎日リハビリテーションの提供に努め、患者の在宅復帰に貢献する。 ・急性期病院における在院日数短縮に伴う退院促進化により、より重度な状態での患者受入ニーズが高まることから、スムーズな連携が行えるよう診療態勢の強化を図っていく。 ・慢性期医療における高齢者救急対応についても、在宅医療機関との連携をさらに強化し、持続・安定的な受入態勢を整備していく。 ・救急告示病院としての機能強化(宇部・山陽小野田・美祢広域医療圏における病院群輪番制サポート病院としての貢献)。	回復 慢性 250 121 129	実施済		
15	宇部・小野田	美祢市立美東病院	一般療養 100 60 40	急性 慢性 100 60 40	急性 慢性 100 60 40	地ケア 16 16						・本院は、一般病と療養病床の機能をもったケアミックス型の病院である。 ・美東・秋芳地区唯一の病院として、急性期医療、回復期医療、慢性期医療、在宅医療など良質かつ多様な医療を提供している。	・過疎化と高齢化の進展に伴う医療・介護需要の増大や、へき地や医療機関への通院に時間を要する地域(特に美祢市)での医療の確保の観点から、当院の地域において今後担うべき役割としては、当院の基本方針の一つである救急及び急性期医療をはじめ、リハビリテーション、慢性期医療までの一貫した医療を提供することである。	急性回復 慢性 100 40 20 40	実施済		
16	宇部・小野田	美祢市立病院	一般療養 126 81 45	急性 慢性 126 81 45	急性回復 慢性 121 36 45 40	地ケア 30 30		○				・本院は、一般病床と療養病床の機能をもったケアミックス型の病院である。 ・退院後に在宅療養をされている患者にする訪問診療・訪問薬剤の実施や、介護老人保健施設の併設等により、急性期を脱した高齢の患者が転院することなく、当院の基本方針のひとつである「救急および急性期医療をはじめ、回復期医療、慢性期医療、在宅医療までの一貫した医療の提供に努める」ことが可能となっている。	・中山間地域である美祢市においては、一般病床・療養病床を有しているのは当院と美祢市立美東病院のみである。 ・特に高齢者にとってアクセスの良い身近な病院として、急性期・回復期・慢性期医療の提供や在宅医療の支援等多様な機能をもつことによって、美祢市の医療需要に柔軟に対応することが、当院の担うべき役割となる。	急性回復 慢性 121 36 45 40	未実施	病床削減は令和6年7月実施 回復期への転換は令和7年4月実施	
17	宇部・小野田	山口労災病院	一般 313 313	高度急性回復 313 6 247 60	高度急性回復 308 6 245 57	地ケア 60 60	○	○				・5 疾病5 事業(がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・精神の5 疾病、救急医療・災害医療・へき地医療・周産期医療・小児医療の5 事業)のうち、へき地医療を除く5 疾病4 事業に係る医療提供の役割を負託。	・MDC分類のシェア状況を考慮し、圏域の医療需給バランスを安定的に維持できるような体制を目指す。	高度急性回復 308 6 245 57	実施済		

整理 番号	区域	医療機関名	許可病床数 (精神・感染症・結核除く) R5.7.1 ※1	病床機能報告による 機能別病床数 ※1		施設基準の 状況 R5.7.1 ※2	認定・届け出等 ※3					「公的医療機関等2025プラン」又は「医療機関2025プラン」の記載内容のうち、「自施設の現状」「今後の方針」「4機能ごとの病床のあり方について」から集約・抜粋((プラン未作成の有床診療所については、病床機能報告の報告内容から整理) ※4	対応方針の実施状況 (令和6年6月末時点) ※5								
				R5.7.1	R7.7.1		地域 医療 支援	救急 医療 施設	在宅 療養 支援	在宅 療養 後方 支援	終末 期 医療		病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床 数(2025)	実施状況		備 考 (実施予定時期など)			
18	宇部・小野田	長沢病院	療養 60 60	慢性 60 60	慢性 60 60						○		・慢性期機能を担う。	・24時間いつでも対応可能であり、特に、終末期の患者にとってはなくてはならない病院である。 ・山口労災病院との連携で在宅復帰できない患者の受け皿として、また難病患者の受入れ可能な病院である。 ・2023年4月1日より循環器内科を開設。近い将来、看取り療養病床の終焉が見えてきているなか、急性期からの入院受け入れは維持しながら「養生」のための病床から、専門性を生かした「治療目的」な療養病床を目指す。 ・また、3名の常勤医師で24時間、365日対応できる在宅療養支援病院として、かかりつけ医としての役割を果たす。 ・これから、住診・訪問診療に積極的に取り組む。	慢性 60 60	実施済					
19	宇部・小野田	小野田赤十字病院	一般療養 92 40 52	回復慢性 92 40 52	回復慢性 92 40 52	地ケア 40 40					○		・ケアミックス型の機能を有し、急性期患者の入院や、地域の在宅医療を担う診療所からの緊急入院、レスパイトケアの求めにも対応し、手術も行える病院。急変時や状態悪化時には速やかに受入れ、安定すれば元の施設や診療所に戻す「病診連携・病施連携」を図っている。 ・在宅復帰困難者への受け皿としての役割を果たす。特に進行性の神経難病疾患受入れの医療機関としては、県内の中核病院である。 ・病状が不安定であるターミナル期、重症な褥瘡処置が必要な患者を高度急性期・急性期の病院から早期に受入れることで、機能分化を担っている。 ・在宅復帰に向けた、訪問診療の実施、地域包括ケア病床の開設、併設の老人保健施設、訪問看護ステーションの運営等により、地域における地域包括ケアシステムの中核施設としての機能を充実させる。	・急性期医療については、市内に当院よりも病床数の多い急性期病院が複数存在することから、大幅に機能を縮小する。 ・救急医療については、「働き方改革関連法」の医師への適用に合わせ、状況により夜間の急患の受入を中止又は制限する。 ・高度急性期病院等の受け皿として地域包括ケア病床や緩和ケア機能の充実強化を図り、病院の機能分化を進める。そのため、一般病床を全て地域包括病床へ転換するとともに、常勤内科医(特に脳神経内科医)の確保に努める。 ・地域包括ケアシステム構築の実現のためには、本院自体も地域包括病床や在宅復帰機能強化型の老健、介護医療院などを整備し、在宅と医療・介護サービスをよりシームレスにつなげる。	回復慢性 92 40 52	実施済					
20	宇部・小野田	森田病院	療養 36 36	慢性 36 36	慢性 36 36								・慢性期機能を担う。	・腎不全患者に対して透析治療の提供。嚥下障害のある患者への入院栄養管理。急性期病院の受け皿、小規模病院としてのかかりつけ医の役割。病院として24時間365日対応可能。	慢性 36 36	実施済					
21	宇部・小野田	山陽小野田市民病院	一般 215 215	急性回復 215 160 55	急性回復 199 144 55	地ケア 55 55					○	○	・山口大学医学部附属病院の高度急性期機能を補完する一般病院であり、山口労災病院と小野田赤十字病院の間の中間的な急性期病院。 ・種々の合併症患者にも対応ができる腎・透析センターを保有するとともに、産婦人科医師及びスタッフが充実した地域の中核的な分娩取扱いは病院。 ・市内の介護・福祉施設の嘱託医として在宅診療に貢献する病院。	・5疾病のうち4疾病について、引き続き、予防、急性期医療、回復期医療を通じて専門的治療を行っていく。 ・福祉行政部門との緊密な連携により在宅医療につなげていく。また、在宅療養後方支援病院として緊急時の一時入院に必要な後方病床の確保等、積極的に在宅療養の支援を行う。 ・お産や透析の機能を維持することで地域医療に貢献する。 ・市内の3つの公的病院が、機能を分担しながら医師会と連携して地域医療を確保する。 ・災害拠点病院として、災害医療体制の強化を図る。 ・今後の人口減少に伴う医療需要の減少、圏域内の病院との機能分化・連携強化を踏まえ、持続可能な医療提供体制の確保及び自院の経営の安定強化を図るため、令和5年9月に医療圏で過剰となっている急性期病床を16床削減する。	急性回復 199 144 55	実施済					
病院小計			3,983 一般療養 1,386	3,983 高度急性回復慢性 1,685 1,324	3,957 高度急性回復慢性 1,622 1,236	642 回リハ 242 地ケア 400	2	10	5	4	0				3,957 高度急性回復慢性 1,596 1,202	実施済	18	未実施	3	実施率	85.7%
22	宇部・小野田	しま産婦人科	一般 13 13	急性 13 13	急性 13 13								・急性期機能(分娩)を担う。	・地域における周産期医療を担う。	急性 13 13	実施済					
23	宇部・小野田	針間産婦人科	一般 4 4	急性 4 4	急性 3 3								・急性期機能(分娩)を担う。	・正常分娩を診ていくには、スタッフの人数、施設の老朽化も含め難しい面が多い。 ・他院ではなかなか時間がとれない若年妊娠、思春期、更年期、性的マイノリティなどに力をいれているが、それをもっと強化していく。	急性 3 3	実施済					
24	宇部・小野田	のむら大腸肛門クリニック	一般 19 19	急性 19 19	急性 19 19								・4機能のうち急性期機能が中心。	・大腸・肛門患者への対応を中心とした急性期医療の提供体制は維持していく。	急性 19 19	実施済					
25	宇部・小野田	はしもと産婦人科医院	一般 11 11	急性 11 11	急性 11 11								・急性期機能(分娩)を担う。	・地域における 出産・入院の ニーズに対応するため現状維持。	急性 11 11	実施済					

整理 番号	区域	医療機関名	許可病床数 (精神・感染症・結核除く) R5.7.1 ※1	病床機能報告による 機能別病床数 ※1		施設基準の 状況 R5.7.1 ※2	認定・届け出等 ※3					「公的医療機関等2025プラン」又は「医療機関2025プラン」の記載内容のうち、「自施設の現状」「今後の方針」「4機能ごとの病床のあり方について」から集約・抜粋(プラン未作成の有床診療所については、病床機能報告の報告内容から整理) ※4	対応方針の実施状況 (令和6年6月末時点) ※5						
				R5.7.1	R7.7.1		地域 医療 支援	救急 医療 施設	在宅 療養 支援	在宅 療養 後方 支援	終 末 期 医 療		病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床 数(2025)	実施状況		備 考 (実施予定時期など)	
26	宇部・小野田	吉永外科医院	一般 14 急性 14	急性 14 急性 14	急性 3 急性 3							・急性期機能を担う。	・日本大腸肛門病学会専門医として、引き続き肛門(痔)の手術を入院にて安全に行い、大病院の外科の負担を減らす。 ・大腸内視鏡検査にて、一泊入院で大腸ポリープのポリペクトミーを安全に行い、大病院の消化器科の負担を減らす。 ・宇部市の大腸がん検診の精密検査を施行する医療機関として、多くの他院からの紹介を受けている。 ・市内の身近なかかりつけ医としての機能も継続する。 ・将来の医療需要を見据えるとともに、医師・看護師等の限られた医療資源を最大限効率的に活用するため、急性期病床を3床へ見直す。	急性 3 急性 3	実施済				
27	宇部・小野田	南園クリニック	一般 19 急性 19	急性 19 急性 19	急性 19 急性 19				○		○	・人工透析患者に対する療養、外科的治療を要さない急性期脳卒中患者に対する療養、在宅医療を提供している方への療養が中心。	・在宅医療を提供している方の急性期の対応を今後も充実させていく必要がある。 ・高度急性期からの在宅復帰に向けた患者の受入れ機能を充実させていく必要がある。(脳卒中後のリハビリテーションの提供など)	急性 19 急性 19	実施済				
28	宇部・小野田	植田救急クリニック	一般 10 急性 10	急性 10 急性 10	急性 10 急性 10							・24時間365日急患対応できる救急クリニックとして地域に貢献。	・急性期のみならず「かかりつけ医」としての役割も全うしていく。 ・これまで通り、地域の基幹病院と連携を図り、地域医療に貢献していく。	急性 10 急性 10	実施済				
29	宇部・小野田	紫苑リハビリ内科クリニック	一般 19 回復 19	回復 19 回復 19	回復 19 回復 19				○		○	・回復期リハビリが中心。	・脳血管及び骨折後等のリハビリを中心とした回復期リハビリを今後も続けていく。	回復 19 回復 19	実施済				
診療所小計			一般 108 108	高度 108 急性 89 回復 19	97 0 78 19		0	0	2	0	2	①必要病床数 ・合計3, 208 ・高度 328 ・急性 937 ・回復 879 ・慢性1, 064 ②2025プラン 4, 054 377 1, 674 801 1, 202 ②ー① 846 49 737 ▲78 138		高度 97 急性 0 回復 78 19	実施済	8	未実施	0	実施率 100.0%
医療圏合計			4,091 一般 2,705 療養 1,386	4,091 高度 378 急性 1,774 回復 615 慢性 1,324	4,054 高度 378 急性 1,700 回復 740 慢性 1,236	639 回リハ 242 地ケア 397	2	10	7	4	2			4,054 高度 377 急性 1,674 回復 801 慢性 1,202	実施済	26	未実施	3	実施率 89.7%

※1: 令和5年度病床機能報告における病床数。

※2: 中国四国厚生局「届出受理医療機関名簿(届出項目別)」において、【地ケア: 地域包括ケア病棟入院料又は地域包括ケア入院医療管理料】、【回リハ: 回復期リハビリテーション病棟入院料】を届け出ている病床数。

※3: 【地域医療支援: 地域医療支援病院の承認を受けた病院】、【救急医療施設: 二次救急医療施設の認定を受けた病院は「○」、: 三次救急医療施設の認定を受けた病院は「◎」】、【在宅医療支援: 在宅医療支援病院又は在宅医療支援診療所の届出のある医療機関】、

【在宅医療後方支援: 在宅医療後方支援病院の届出のある病院】、【終末期医療: 令和5年度病床機能報告における「有床診療所の病床の役割」の項目のうち、「終末期医療」を選択している有床診療所】

※4: 「機能別病床数(2025)」については、令和6年3月までに調整会議において合意された2025プランの内容を反映している。なお、今回、変更を協議する場合は、変更内容を反映している。また、有床診療所については、「病床機能報告による病床数」の「R7.7.1」の機能別病床数を反映している。

※5: 対応方針の実施状況は令和5年度病床機能報告等で確認して記載し、未実施の場合は実施予定時期を記載。例: 令和6年9月頃。また、有床診療所で2025プランの機能別病床数が休棟又は廃止の場合については、実施済に区分している。